

TOYO ELECTRIC CORPORATION



第75期 報告書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

目次

トップインタビュー

“第2の創業”に向けて、
新たな価値を創造へ p1

TOYOのものづくり

コントロールセンタ p4

セグメント別概況 p5 連結決算概要 p7

社員インタビュー p9 トピックス p9

会社概要／株式状況 p10



電子の夢を創る

東洋電機株式会社

証券コード：6655

“第2の創業”に向

Q 当期の業績に変化は見られましたか。

A 当社グループの製品の多くは、企業の生産設備の稼働支援に用いられています。この数年、景気の不透明感から設備投資が手控えられ苦戦しました。企業収益によりやく回復の兆しが現れ、期の後半からは新たな引き合いも見られるようになりました。原価改善、業務効率化にも努めた結果、収益面でも一定の成果が見られました。

Q 主要な事業部門の動きについてもお聞かせください。

A 国内制御装置関連事業は、3部門とも売上が伸び、利益の改善が進みました。

エンジニアリング部門で鉄道関連向け監視制御装置や海外向け印刷制御装置が増加しました。配電盤は採算性を重視したことにより仕事量は減少しました。搬送制御装置は郵政関連向け需要が一巡し、減少しました。機器部門は、下期に入ってエレベータ関連センサの需要が回復したものの、上期の低迷の影響を脱することができず全体では減少しました。空間光伝送装置分野は、防犯業界向けの需要が伸長しました。表示器分野は、太陽光など新エネルギー関連設備向け表示器の需要が拡大したほか、国際空港にLCC向け表示器を納入しました。変圧器部門は太陽光向けやIT関連市場のデータセンタ向けに乾式変圧器の需要が拡大しました。また、地域防災の関連で耐雷の変圧器が健闘しました。

海外制御装置関連事業は、南京華洋電気有限公司が製造・販売するエレベータセンサが伸長したものの、受配電盤が大幅に減少しました。数年前から手掛けてきた制御盤で新たなお客様の開拓が実ろうとしています。

樹脂関連事業は、自動車向け部材の軽量化・強度化の動きによりコンパウンド樹脂が堅調に推移しました。炭素繊維

株主の皆様には格別のご支援をたまり厚く御礼申し上げます。国内景気はようやく上向き、東洋電機グループも営業、製造、研究開発が一丸となってお客様の新たな要請に伝えるべく、さまざまな試みを加速しています。今後とも引き続きお引き立ていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

松尾 昇光

けて、新たな価値を創造へ

強化プラスチックのリサイクル素材を使った試作も始まっています。ガードパイプ、ガードフェンスなどの道路安全資材分野は、公共投資抑制の影響から当期末をもって撤退しました。

Q 社長直轄の海外市場開拓部と国内市場開拓部の動きはいかがですか。

A これまでつながりが薄かった企業への営業開拓と情報収集に努めています。国内では無線式モニタリングシステム「マジックビー」、日本放送協会（NHK）と協同検証中の「水中可視光通信装置」、既存製品・サービスを協業という形でパートナーを得て、新たな客先・市場への売込みを図っています。一方、海外ではグローバル展開を進める日系企業などに当社の製品・サービスをPRし、新たな顧客開拓につなげています。中国では日系のエレベーターメーカーに加え、中国国内の上位メーカーとのパイプを太くし、安定した受注につなげようとしています。また、これを機会に部材の現地調達も広げています。新しいお客様との人脈づく

りが進み、1つでも協業のチャンスが生まれればと考えています。

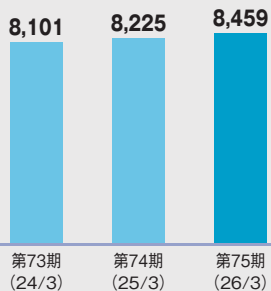
Q 期待の新品「マジックビー」の拡販は順調ですか。

A 広域無線の技術を応用したモニタリングシステムです。工場・ビル施設・農地などの環境モニタリング、物流における安全品質トレーサビリティに利用が期待されています。これまでは「あれもできる、これもできる」という形の販売でしたが、突破口をつくろうということで、環境用モニタリングにデモ機の貸し出しが行われています。大学・研究機関・行政などが進めるもので、ここで成果が認められれば、販売に弾みがつくと考えています。話題のPM2.5（空中に浮遊する微小粒子状の物質。呼吸器系の健康被害が憂慮される）の簡易モニタリングとしても使われる可能性があります。当社Webページにマジックビーのネットチラシを登場させました。ご覧いただければと思います。

決算ハイライト

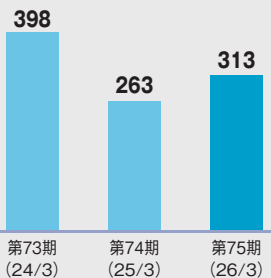
売上高

(単位:百万円)



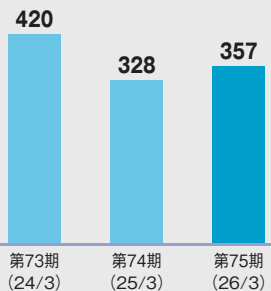
営業利益

(単位:百万円)



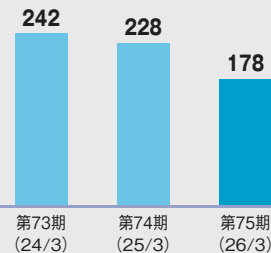
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



Q タイ子会社が稼働を始めました。この新拠点の構想についてお聞かせください。

A 3月から稼働を開始しました。当面は中国で製造したエレベータセンサを受入れ、検査をして出荷するという役割です。バンコク郊外の工業団地に位置しており、近くに日系の大手エレベータメーカーの工場もあります。そちらとの協業を強め、やがては東南アジア、インド、中東などにも販路を広げていきたいと考えています。将来的にはエレベータセンサの製造・販売のほか、工場の自動化装置などの製造・販売も手掛けたい。3年をめどにエレベータセンサのタイ子会社製造までもっていきたいと考えています。

Q まもなく70周年を迎えます。それに向けて新しい動きも始まっているようですね。

A 当社は1年後に創業70周年、3年後の2017年7月に設立70周年を迎えます。この節目の年を新たな飛躍につなげるため、この機会を『第2の創業』と位置づけ、売上や収益面でもう一段上を目指します。

実は8月には本社機能を神屋工場から春日井工場に移転し、神屋工場の機能強化を図るとともに、老朽化していた春日井工場の変圧器製造ラインの建替えも進めています。これらが完成すれば、将来に向けた生販一体化に向けた整備・

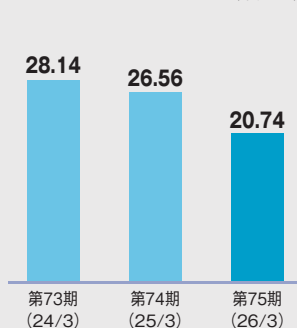


強化が一層図られるものと期待しています。

新本社は役員・社員が大部屋で同居する形となり、顔を突き合わせ、心を通わせて仕事をするようになります。当社グループが抱えるさまざまな課題を共有し、共通の目標に向かって突き進むことができれば、大きな成果を手にすることができると確信しています。株主の皆様のご理解とご支援を引き続きよろしくごお願い申し上げます。

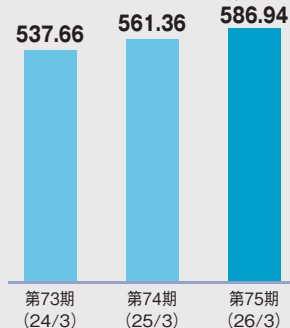
1株当たり当期純利益

(単位:円)



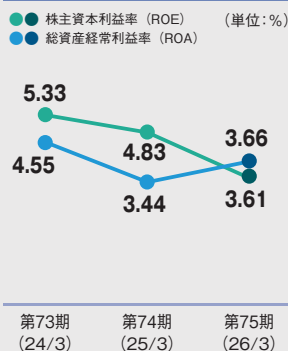
1株当たり純資産額(BPS)

(単位:円)



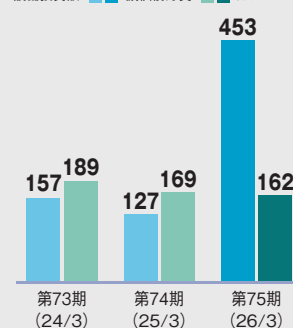
株主資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)

(単位:%)



設備投資額/減価償却費

(単位:百万円)

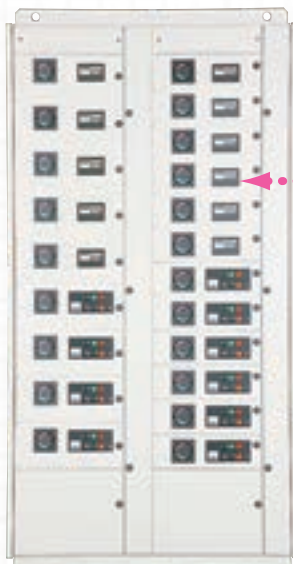


新型IPR搭載 コントロールセンタ

保護・監視機能をさらに充実させ、
より使いやすくなった新型多機能リレー(新型IPR)。

「お客様のニーズのために、
信頼性、安全性、操作性に優れた
新しい技術を常に目指しています。」

- CC-Link通信が最新バージョンになりました (Ver.2.0対応)。
- IPRが監視するデータが、より簡単に取り出せるようになりました。
- 瞬時過電流保護 (ショックリレー) 機能の設定範囲が広範囲となり、より充実しました。
- 異常発生時のデータが記録されるようになり、表示も可能となりました (ロギング機能)。



保護

過電流、欠相、過電流瞬時
不足電流、地絡

制御

正/逆転、停止、
Y-Δ (3接触器式、4接触器式)
MCフリー、瞬停保護

計測・表示

電流値 (R、S、T、地絡)
簡易電力、アナログ入力
履歴、設定値、異常コード

高信頼性

CC-Link簡易2重化通信
各種インターロック



簡易ラダー

ラダープログラム制御

試験

保護機能試験
過電流、欠相、地絡、
過電流瞬時、不足電流、通信

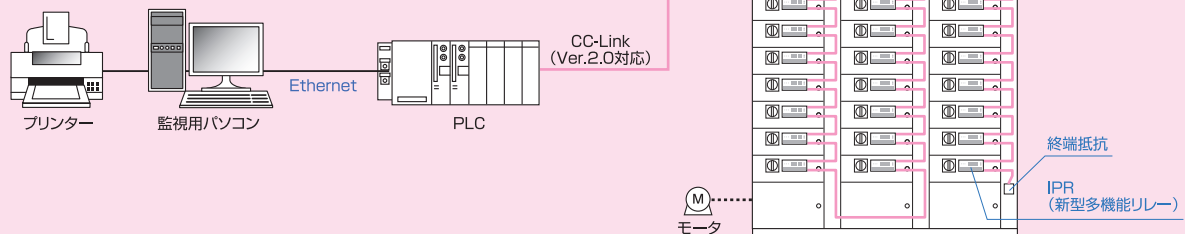
伝送

計測、運転、設定値
CC-Link通信ネットワーク

設定

外部アナログ入力カスケール
異常検出動作時間等
PCで編集、USB経由読み書き

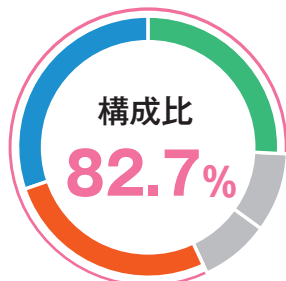
システムフロー



I. 国内制御装置関連事業

売上高 **7,062**百万円
前期比 4.9%増

国内制御装置関連事業は、当社グループの中核事業として、日本国内を中心に事業展開しております。当事業は3部門から構成されており、3部門の売上高がそれぞれ伸長したことにより売上高は7,062百万円(前期比4.9%増)となりました。



内 訳



エンジニアリング部門



機器部門

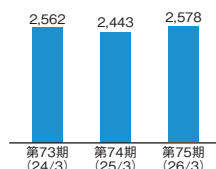


変圧器部門

エンジニアリング部門 売上高 **2,578**百万円 前期比 5.5%増

エンジニアリング部門の事業は、業種業界ごとに異なる制御システムを提供しております。当事業のうち、配電盤分野や搬送制御装置分野が減少したものの、監視制御装置分野や印刷制御装置分野が増加したことにより、売上高は2,578百万円(前期比5.5%増)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



鉄道関連製品「無人駅高声電話機」

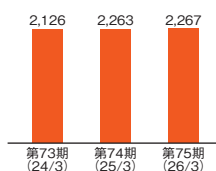
主な主要製品

- オンデマンドフォーム印刷機電装品
- インテリジェント多機能リレー(IPR)
- 省配線型搬送コントローラ(MRC)
- 宛名紙印刷搭載機

機器部門 売上高 **2,267**百万円 前期比 0.2%増

機器部門の事業は、光技術を応用した様々な産業設備用機器を自社開発し、自社製品として提供しております。当事業のうち、エレベータ関連センサの在庫調整によりセンサ分野が減少したものの、空間光伝送装置分野や表示器分野が増加したことにより、売上高は2,267百万円(前期比0.2%増)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



空間光伝送装置

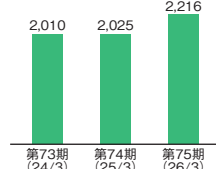
主な主要製品

- 空間光伝送装置
- エレベータ・エスカレータ関連機器
- 交流電力調整器
- 情報表示器

変圧器部門 売上高 **2,216**百万円 前期比 9.4%増

変圧器部門の事業は、当社が設立以来営んでおり、受配電用変圧器から機械設備用変圧器などを提供しております。当事業は、新エネルギー関連市場向け乾式変圧器ならびにIT関連市場向け乾式変圧器の需要が伸長したことなどにより、売上高は2,216百万円(前期比9.4%増)となりました。

売上高推移 (単位:百万円)



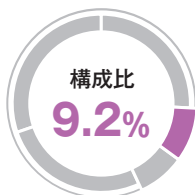
乾式変圧器 TKHⅢシリーズ

主な主要製品

- 乾式変圧器
- 耐雷変圧器
- モールド変圧器
- 始動リアクトル

Ⅱ. 海外制御装置関連事業

売上高 **705** 百万円
前期比 9.4%減



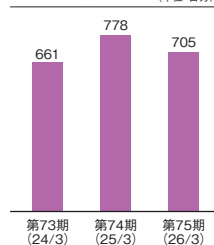
海外制御装置関連事業は、中国南京市にある当社グループの海外企業が、事業を展開しております。当事業は、当社が培ってきた技術や生産ノウハウを基盤に、南京市における優良盤メーカーとして事業展開する盤部門と国内制御装置関連事業のうち、機器部門におけるエレベータ関連センサの生産販売を手掛ける電子部門の2部門から構成されております。

電子部門の売上高は、エレベータセンサは伸長したものの、盤部門における日系企業および中国企業向けの受配電盤が大幅に減少したことなどにより、当事業の売上高は705百万円（前期比9.4%減）となりました。

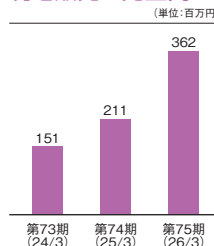
なお、当事業と国内制御装置関連事業における機器部門とは、日本向けエレベータセンサなどの製品群において進料加工生産を行っております。

また平成25年2月26日付で設立した子会社Thai Toyo Electric Co.,Ltd.につきましては、平成26年3月末現在において稼働は行っておりますが、当連結会計年度における売上高の計上はありません。

売上高推移 (単位:百万円)



電子部門の現地生産 現地販売 売上高 (単位:百万円)



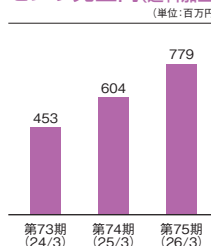
主な主要製品

- 盤部門
高圧受配電盤
コントロールセンタ
PLC応用制御盤
- 電子部門
マルチビームセンサ
かご位置確認用センサ



C型コントロールセンタ

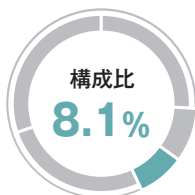
センサ売上高(進料加工) (単位:百万円)



エレベータセンサ
「かご位置確認用センサ」

Ⅲ. 樹脂関連事業

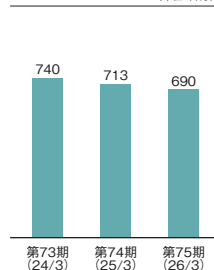
売上高 **690** 百万円
前期比 3.1%減



樹脂関連事業は、当社グループの東洋樹脂(株)が展開している樹脂リサイクル事業です。当事業は、樹脂関連分野は伸長したものの、道路交通安全資材分野が減少したことにより、売上高は690百万円（前期比3.1%減）となりました。

なお、道路交通安全資材分野につきましては、公共投資抑制の影響等により当連結会計年度末をもって撤退いたしました。

売上高推移 (単位:百万円)



主な主要製品

- 廃プラスチックのリサイクル
- リサイクル樹脂ペレットの生産・販売
- プラスチックのコンパウンド受託加工
- 樹脂パウダーの生産
- 車止め
- 防護柵



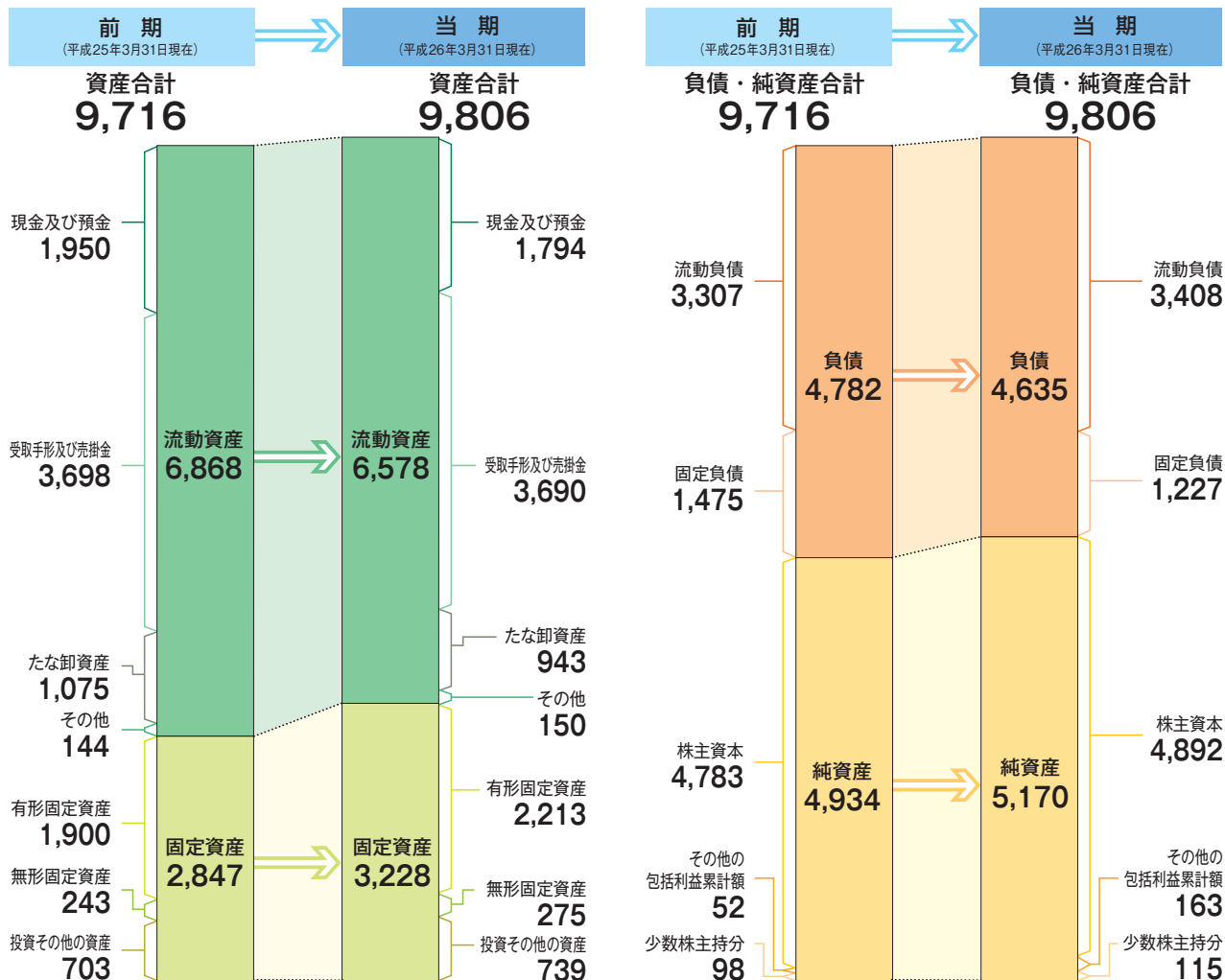
樹脂ペレット



防護柵「ガードパイプ」

連結決算概要

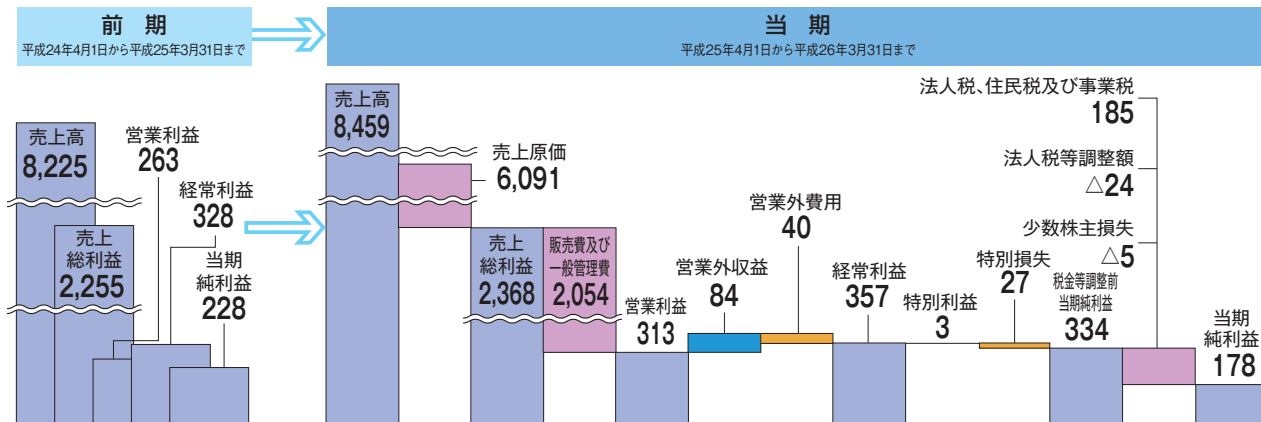
連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



POINT

総資産は、現金及び預金およびたな卸資産が減少したものの、有形固定資産および投資その他の資産が増加したことなどにより前期末比90百万円増加し、負債は、主に短期借入金や未払法人税等の流動負債が増加したものの、長期借入金など固定負債が減少したことなどにより前期末比146百万円の減少となりました。なお純資産は、利益剰余金および為替換算調整勘定の増加などにより236百万円増加しました。

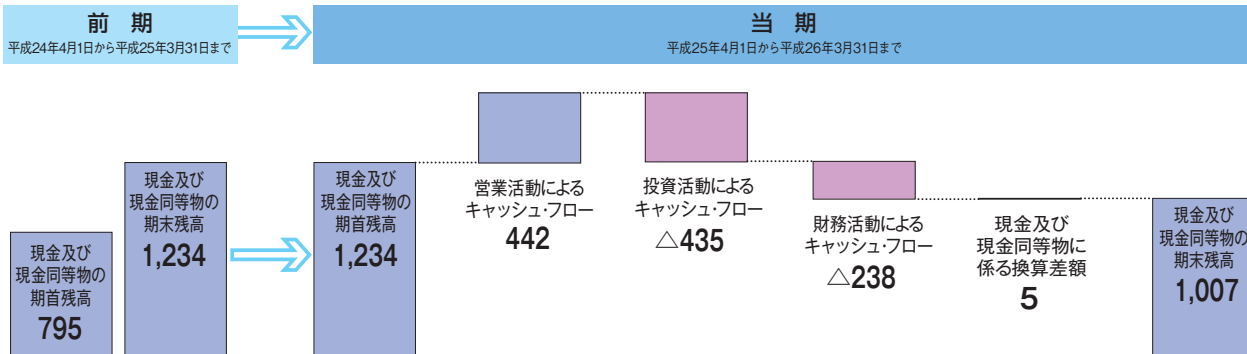
連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



POINT

当期の売上高は、将来に向けた生販体制の整備・強化を図りつつ、国内外に係る新規市場開拓ならびに既存顧客への深耕開拓など積極的な営業展開と原価改善、業務効率化推進など収益力の向上に努めた結果2.9%増収となりました。利益面では、売上高の増加に伴う荷造運送費、技術研究費など販売費及び一般管理費が増加したものの適正利益を意識した受注活動の推進ならびに売上原価率の改善活動等により、営業利益、経常利益は増益となりました。当期純利益は、法人税等を計上したることなどにより、減益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



POINT

当期の現金及び現金同等物は、前期末に比べ226百万円減少し1,007百万円となりました。営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前当期純利益および減価償却費、たな卸資産の減少などにより442百万円となりました。投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより435百万円となりました。財務活動の結果使用した資金は、短期借入による増加要因はあったものの、長期借入金の返済ならびに配当金支払などにより238百万円となりました。

巻線に気持ちを込めて

事業本部 春日井工場
製造部 製造課 一係 係長 岡田 淳

変圧器は、磁気回路を構成する鉄心と電気回路となる巻線から構成されています。入社から17年。変圧器の組立てや小型変圧器の配線を経験した後、中・大型変圧器の巻線を担当するようになりました。

当社で製造する変圧器はハンドメイドの受注品でサイズもまちまちです。指定された寸法内で巻線をするわけですが、検査に合格するよういかにきっちり巻くかが腕の見せ所です。若いころは自分が製作した巻線が巻数検査で不具合を指摘され、巻き直すことも幾度かありました。

一般の方には変圧器がどこで使われるのか、想像しにくいかもしれません。自分が担当した身近なところでは太陽光発電、データセンタ、携帯電話やデジタル放送の基地局向けの電源としてそれぞれ採用されています。私たちの仕事もどこかで社会とつながっていると感じています。

2年前に結婚。現在は子供も生まれて3人家族となりました。家族ができたことで、独身時代に謳歌していたゴルフやスノーボードなどの趣味も封印。今はイクメン道をま



っしぐらです。休日には家の掃除や子供の面倒をみるほか、専業主婦の妻を外に連れ出すこともします。

間もなく新しい工場体制がスタートします。仕事をやりやすくする改善活動も進めています。先日、KYT（危険予知訓練）リーダーの講習会と中部IE主催のトヨタさんの工場見学を兼ねた講習会に参加しました。トヨタさんは機械設備も凄いが、作業員の無駄のないきびきびした動きが印象的でした。そうした講習会で学んだことは、早速職場の後輩たちにも伝えました。11月にはフォークリフトの免許も取りました。重量物を取り扱う職場だけに、作業の負担軽減が大きな課題になっています。

トピックス

第75期のトピックスをご紹介します。

タイ・トーヨー 竣工式



平成26年3月19日に、タイ王国 アマタ・ナコーン工業団地にて、Thai Toyo Electric Co.,Ltd.の竣工式が行われました。

集合写真(写真左)と建物外観(写真右)

▶ 会社の概況

商号	東洋電機株式会社
設立	1947年(昭和22年)7月
資本金	10億3,708万円
本社所在地 (登記上)	〒486-8585 愛知県春日井市味美町2-156
本社事務所	〒480-0393 愛知県春日井市神屋町字引沢1-39
営業部 関係会社	東京、名古屋、大阪 東洋樹脂株式会社 (愛知県小牧市) 東洋電機ファシリティーサービス株式会社 (愛知県春日井市) 東洋板金製造株式会社 (愛知県春日井市) 南京華洋電気有限公司 (中華人民共和国江蘇省南京市) Thai Toyo Electric Co., Ltd. (タイ王国チョンブリ県)
主要取引銀行	百五銀行、商工中金、三井住友銀行、 名古屋銀行
従業員数	224名(連結520名)

▶ 役員 (平成26年6月24日現在)

代表取締役会長	松尾隆徳	
代表取締役社長	松尾昇光	
取締役	松村和成	管理本部長付兼南京華洋電気有限公司董事
取締役	丹羽基泰	経営企画本部長
取締役	加藤信	管理本部長
取締役	清水純一	市場開拓本部長
取締役	加藤茂男	エンジニアリング事業部長
取締役	堀睦英	機器事業部長
常勤監査役	森正一	
監査役	有賀重介	
監査役	葛谷昌浩	

(注)監査役有賀重介および葛谷昌浩の各氏は、社外監査役であります。

▶ 株式の状況

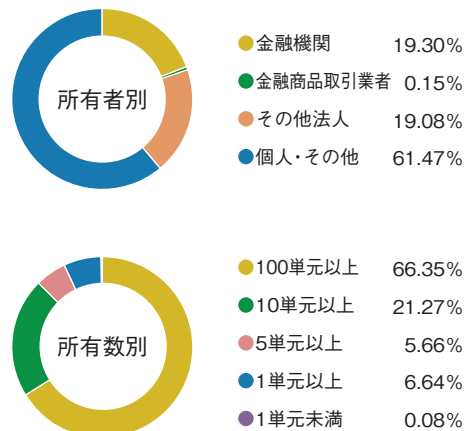
発行可能株式総数	18,000,000株 (普通株式)
発行済株式の総数	9,388,950株 (自己株式775,724株を含む)
株主数	604名

▶ 大株主

株主名	持株数	持株比率
松尾隆徳	844千株	9.80%
東洋電機従業員持株会	650千株	7.55%
東洋電機取引先持株会	492千株	5.71%
株式会社商工組合中央金庫	465千株	5.39%
株式会社百五銀行	428千株	4.96%
有限会社城西	375千株	4.35%
松尾昇光	307千株	3.56%
トーヨーテクノ株式会社	289千株	3.36%
日本生命保険相互会社	250千株	2.90%
第一生命保険株式会社	250千株	2.90%

(注)持株比率については、自己株式(775,724株)を控除して算出しております。

▶ 株式分布状況



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	
上場取引所	株式会社名古屋証券取引所 市場2部 (コード6655)
公告掲載新聞	日本経済新聞

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

最新の製品情報やIR情報などを分かりやすく掲載しています。

<http://www.toyo-elec.co.jp/>

東洋電機

検索



製品
情報



会社
情報



IR
情報



お問合せ先

東洋電機株式会社

〒480-0393 愛知県春日井市神屋町字引沢1-39
TEL.0568-88-1700 FAX.0568-88-0701

この報告書は植物油インキを使用しております

